

日本小児感染症学会若手会員研修会第5回福島セミナー

福島へようこそ

橋本浩一*

平成25年の夏に「平成26年の若手セミナーは福島で」との声をうかがったその日から、若手セミナーを福島で成功すべく準備を開始しました。福島での開催の理由はいくつかありました。東北、北海道からの参加者が少ないため、より参加しやすい場所での開催、そして学会をあげての震災後の福島への応援です。開催場所の選定にあたり、24時間缶詰めで成果を作りあげる当セミナーの不可欠条件として、24時間利用可能な会議室の確保、束の間でも疲れを癒す温泉があり、そして参加者が日本各地から朝一で出発し、午後1時までにセミナー会場に到着できる地理的条件です。最終的に新幹線で東京から1時間30分、仙台から45分の郡山市での開催を検討し、伊豆の熱海温泉ではなく磐梯熱海温泉での開催を決定しました。

磐梯熱海温泉には物語があります。開湯は800年前であり、熱海という地名は、奥州合戦の後にこの地の領主になった源頼朝の家臣伊東祐長の出身地である伊豆の熱海温泉に由来するそうです。そのため、現在でも磐梯熱海周辺には安子ヶ島、上伊豆島など内陸でありながら〇〇島のような地名があります。シャトルバスの車窓から、このような地名をみて不思議に感じられた先生もいらしたと思います。また、セミナー会場の青陵山倶楽部の裏を流れる清流は五百川です。その昔、京都の「萩姫」という姫が病にかかったとき、「京から北に五百番目の川を上りなさい」といわれ、姫はその五百番目の川を探し、旅をしたそうです。そして五百番目の川である五百川の磐梯熱海温泉を見つけ、その湯に入るとたちまち病は治ったとい



図1 がくとくんが郡山駅でお迎え



図2 長い夜に向けて乾杯、楽しい夕食

う話です。今回は東北の片田舎での温泉情緒にゆっくり浸ることはできなかったと思いますが、なにかの機会に磐梯熱海温泉を思い出していただ

* 福島県立医科大学医学部小児科学講座



図3 “ケヤキの森” 散策

ければと思います。

もう一つ、開催地の選定に不可欠なものがありました。それは、徹夜の疲れを癒す早朝散歩のための散策路です。セミナー会場の裏山には「ケヤキの森」という散策路があり、堤理事長を先頭に2番目に森内先生、その後小田先生、成相先生、田中先生、笠井先生…と続き、朝食前の朝露残る初秋の早朝散策を楽しみました。ちなみに「マムシ注意」の立札がところどころにあり、列の2番目がよく囃まれるそうで、森内先生が自ら2番目をお務めになされていました。

また今回、折角福島に来られるので、日本が世界に誇る細菌学者の野口英世博士の記念館、そして隣接する喜多方ラーメン館へのオプションツアーも企画しました。セミナー会場へ片道約30分の猪苗代湖湖畔にあります。ウイルスという概念のないなかでの黄熱病との戦いのなかで、「私はわからない」と言葉を残してアフリカの地で殉職した野口英世博士の生家と記念館の見学、そして

日本3大ラーメンの一つ(?)である喜多方ラーメンのバイキングにご参加いただいた先生方に好評でした。ちなみに、福島県内の古い小学校には薪を背負い本を読む二宮金次郎と野口英世の像が校庭の片隅にありました(若手の先生には、? でしょうか)。

参加者の方はお気づきだったでしょうか。セミナー会場の目の前に放射線のモニタリングポストがありました。放射線空間線量を24時間常時モニタリングし、表示されています。東日本大震災、東京電力福島第一原子力発電所事故で、われわれはリスクコミュニケーション、メディアリテラシーの難しさを感じ、現在もお大きな課題です。この2つは放射線の問題に限らず、社会のさまざまな分野で問題となっています。さらに震災後、「安全」と「安心」とは似て非なるものであることも学びました。さまざまな場面で考えさせられる観点です。今回、福島の地元開催者としましては「真の福島をみてほしい。そして、全国各地に戻り伝えてほしい」という思いがあります。福島で実際に見聞きした、仮設住宅、何気ない生活、そこに住む人々の笑顔、食べ物、モニタリングポスト…何でもお伝えしてください。

今回、福島での開催に多くの方々には福島へおいでいただき、セミナーの成果はいうまでもありませんが、現在の福島を知り情報を共有できる仲間ができ、心の奥底から湧きあがってくるような大きな力をいただきました。改めまして、福島で本セミナーを開催していただき感謝いたします。ありがとうございました。一方で、少しでも東北の温かみとホスピタリティをお届けすることができたでしょうか? 機会があれば、また福島にお越しください。

* * *